

## 第2学年 生活科 学習指導案

大和郡山市立片桐西小学校 教諭 長江 昂大

### 1. 単元名 『とび出せ！町のたんけんたい』

#### 2. 単元の目標

○自分たちの生活は、様々な人や場所と関わっていることがわかり、人々との適切な関わり方や安全に生活することについて考えることができる。 (知識及び技能)

○地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、人々と適切に接することや安全に生活することについて、自分なりに考えたり、振り返ったり、伝えたりすることができる。

(思考力,判断力,表現力等)

○自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わりを持っていることがわかり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。

(学びに向かう力,人間性等)

#### 3. 単元について

##### (1)教材観

本単元は、小学校学習指導要領生活編第3章生活科の内容(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることがわかり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活しようとしたりする。」及び、(4)「公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。」を受けて設定している。

子どもたちは、地域の中でさまざまな人や場所と関わりながら生活している。しかし、そのような関わりを子どもたちが自覚しながら生活しているかというそうではない。また、本校は学校を中心に学区が北側と南側に広がっており、まだ活動範囲が通学路中心の2年生の児童にとっては、地域のことで友達や地区には行ったこともないし知らないという児童も多い。

そこで、本単元では、自分たちが生活している地域に出かけ、そこで生活したり働いたりしている人々と接したり、様々な場所について知ったりすることを通して、それらが自分たちの生活を支えていることや豊かにしていることがわかり、自分たちが生活している地域に親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることを目指している。

##### (2)児童観

本学級は、明るく元気な雰囲気を持っており、自分の興味のあることに対しては意欲的に取り組む児童が多

い。しかし、積極的に自分の意見を伝えたり、表現したりすることに課題がある児童がみられる。また、45 分間席で授業を受けることが難しい児童もいるため、教室での学習を進める際には、グループでの話し合い活動の場を用意したり、写真や ICT を使ったりしながら、意見交換をする方法を工夫してきた。

自分たちが生活している地域の「いいな！」を見つける活動を行う中で、自分たちが生活している地域に親しみや愛着をもち、自分たちも地域で暮らす一員として、できることはないかと考え行動しようとする児童を育てたい。

### (3)指導について

本単元の指導にあたっては、まず自分たちの暮らす地域がどんな地域なのか、知っていることを紹介し合うことから始める。自分のよく知っているお気に入りの場所や人を紹介し合うことによって、よく知らない場所や行ったことがない場所があることに気付き、町たんけんへの意欲を高めていく。次に実際に町たんけんを行い、自分たちが生活する地域についてさらに詳しく知ることができるようにしたい。また、きれいな公園と荒れた公園の写真を比較したり、もし「地域で出会った人がいなかったら」などについて考えたりする中で「いいな！」と感じる場所や施設には、それらを支えている人々がいることなどに気付かせたい。地域の「いいな！」を見つける活動を行う中で、自分たちが生活している地域に親しみや愛着をもち、地域の人とのやりとりや、思いや願いを聞くことで、最終的には自分たちも地域で暮らす一員として、できることはないか考えさせ、児童の行動化につなげたい。

### (4)ESD との関連

#### ・本単元で働かせる ESD の視点

相互性・・・私たちの生活は地域と関わり合っている。

多様性・・・私たちの地域には大切にしていきたい人やものがたくさんある。

#### ・本単元で育てたい ESD の資質・能力

##### ○物事を総合的・構造的に捉える力(システムズ・シンキング)

町探検や町の人にインタビューする活動を通して、自分たちのくらしと片桐西地区の人・もの・ことは密接に関わっているということに気付くことができる。

##### ○進んで参加する態度

自分の町について積極的に見つめ、地域のいいところや探検で感じたことを友達に伝え合うことができる。

また、地域のために自分はどんなことができるか考え、地域の行事に積極的に関わることができる。

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

##### ○幸福感の重視

人・もの・ことが関わり合って町が豊かになっていることに気付き、片桐西地区のことをもっと好きになる。

#### ・達成が期待される SDGs

11 住み続けられるまちづくりを

#### 4. 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域の人々や様々な場所が自分たちの生活を支えていることや、それらが自分と関わっていることが分かっている。</p> <p>② 地域の親しみを感じる人々や愛着のある場所が増えたり、それらが自分たちの生活を楽しくしたりしていることに気付いている。</p> <p>③ ルールやマナーを守って探検することや、安全に気をつけて探検することが大切であることが分かっている。</p>	<p>① 地域の場所や人々を思い おこし、地域の様子について友達と交流している。</p> <p>② 行きたい場所やしてみたいことを思い描きながら、関わりたい人や物や施設を決めたり、計画を立てたりしている。</p> <p>③ 好きになった場所や親しくなった人々などのことを 振り返りながら、友達と伝え合っている。</p>	<p>① 町への関心をもって、自分の知っていることを進んで話したり友達の話の聞いたりしようとしている。</p> <p>② 地域の場所や人々への親しみや愛着をもって、それらのよさを大切にしようとしている。</p> <p>③ 探検で出会った町の人や物や施設のこともっと知りたいという思いをもって、繰り返し関わろうとしている。</p>

#### 5. 単元の展開(全28時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
みつめる	○町の「いいな」を出し合う。		△ウ①
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     じぶんの家のちかくの、すてきなところってどこだろう？                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家の周りのすてきなところを出し合う。</li> <li>・自分の町について知っていることを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に国語の「こんなもの見つけたよ」で、家のまわりでみんなに知らせたいことを探したことを例に出し、家の周りのことを紹介する活動に関心をもたせる。</li> </ul>	△イ①
調べる	○町の「いいな」を見つける。		△ア③ △イ②
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     町の「いいな」をさがしに行こう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町たんけんの計画を立てる。</li> <li>・町たんけんに出かける。</li> <li>・町たんけんで見たものや聞いたものをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町たんけんに出かける前に、何をみたいか、どんなことを知りたいかという「めあて」を持たせておく。</li> <li>・町たんけんの交通ルールを確認しておく。</li> </ul>	

<p>深める</p>	<p>○町の「いいな」を振り返る中で、町のよさやそのよさは、多くの人によって支えられていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町たんけんをして「いいな」と思ったことを友達に伝える。</li> <li>・地域のきれいな公園と荒れた公園の写真を見比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の個人的な意見も受け入れることで、広くローカルな学びにしていく。</li> <li>・「いいな」を伝える場面では、付箋を用いて、「伝えたい」という意欲を引き出すとともに、全員が参加できるようにする。</li> <li>・きれいな公園と荒れた公園の写真を見比べることで、地域の人の必要性にせまり、地域を支えてくださっている人に目を向けさせる。</li> </ul>	<p>△ア①② △イ①③ △ウ①</p>
<p>どんな人がわたしたちの町を支えてくれているのかな？</p>			
<p>広げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町にはどんな人がいたか確認する。</li> <li>・もし「町で出会った人がいなかったら」を考える。</li> <li>・どのようなことをしているのか、どうして支えてくださっているのか町の人に話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のために仕事やボランティアをしてくださっている人がたくさんいることに気付かせる。</li> <li>・もし「町で出会った人がいなかったら」を考えることで、地域を支えている人がたくさんいることに気付かせる。</li> <li>・地域の人のお仕事やそれに対する思いや願いを聞くことで、地域の「いいな！」と感じるものやことには、それを支える人々がいることに気付かせる。</li> </ul>	<p>△イ③ △ウ②③</p>
<p>町の人々のねがいをかなえるために自分たちができることってなんだろう？</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町たんけんで知った町の「いいな！」をまとめる。</li> <li>・町の「いいな！」を伝える準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの「いいな」に関わる人も関連付けてまとめられるように、町たんけんマップを掲示したり、タブレットで探検の写真や関わる人のインタビューを確認したりしながら行う。</li> <li>・発表方法のモデルを示す。(ポスター・新聞・マップ・クイズなど)</li> <li>・地域の「いいな」を広めるなかで、「いいなをたくさん見つけて、発信している自分たちも町のいいなになっている。」ことに気付かせ、ほかにも町のために</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•町の「いいな！」を伝える。(学校掲示・保護者)</li> <li>•どうしたら私達も町の「いいな！」になれるか考える。</li> <li>•「いいな宣言」を考える。</li> </ul>	<p>自分たちができないかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•町の人や場所を思い起こしながら、自分が町のためにできることを考え、自分や友だちが考えた行動を学校や地域で実践させる。</li> <li>•実践で得たことをもとに「いいな宣言」を考え、ふれあいセンターなどに掲示してもらい、自分たちの学びを伝えるとともに、地域の方々から評価を得られるようにする。</li> </ul>	
--	---	--	--